



## リビア：国家の崩壊と武装勢力の割拠

リビア国内の「イスラーム国」を支持する組織によるエジプト人コプト教徒 21 名の斬首映像が「イスラーム国」の中心的広報部門から配信された（2月15日）ことで、今や「イスラーム国」がリビアにまで伸張しつつあるとの論調が目立つようになった。確かにイラクやシリアから「イスラーム国」戦闘員がリビアに送り込まれ、リビア国内で活動しているとの情報は存在する。しかし重要なことは、イラク・シリアの「イスラーム国」とリビア国内の「イスラーム国」との関係がどうであるかよりも、なぜリビアに「イスラーム国」を支持する組織が現れたのかを考察することであろう。なぜなら特定の不安定な政治状況の土地で過激派は「繁殖」するものであり、リビアは「繁殖」の好条件を備えているからである。

### (1) 過激派「繁殖」の好条件：国家の治安統制能力の崩壊

リビアでは 2011 年のカッザーフィー政権の崩壊後から各地で民兵組織同士の武力衝突が頻発していたが、2014 年初頭にはもはや国家の治安統制能力は崩壊し、国軍の一部が総司令部の命令なしにイスラーム過激派掃討作戦を開始したり（ハフタル退役少将の「尊厳作戦」）、主要都市で諸派が戦闘したり状況に陥った。ここまでの惨状に陥った第一の理由は、リビア政府が、カッザーフィー政権打倒で立ち上がった各地の民兵組織の非武装化に失敗したからである。むしろ政府は、ポスト・カッザーフィー時代の治安維持において民兵組織の武力に依存し、給与まで支払った。

治安悪化は新たな国家作りのプロセスにも影響を及ぼし、それが完全な治安崩壊を招いた。2014 年 8 月、暫定立法機関の「国民議会」から正式な立法機関の「代表議会」への権限移譲過程において、政府が西のトリポリと東のトブルクに分裂した。トブルク政府（シンニー首相）は選挙によって選ばれた代表議会を基盤とし、国際社会からリビアを代表する正式な政府と認められた。他方、トリポリには代表議会の正統性を認めない勢力が残り、旧国民議会を基盤に「救国内閣」（ハーシー首相）が結成された。トリポリ政府にはイスラーム主義に近い勢力が多く、トブルク政府には反イスラーム主義勢力が多いとされる。政府分裂により治安維持はおろか国家財政の管理もままならなくなり、治安・財政の両面において名実ともに破綻国家への一途を辿っている。このように治安統制秩序が失われた社会では、共同体や組織の安全を守るために暴力を使用する集団が現れたとしても全く不思議ではない。

### (2) リビア各地での戦闘：国家資源をめぐる戦い

下図は、現在のリビア各地の交戦状況を示したものである。戦闘は主要都市や戦略的要衝（油田、パイプライン、港湾）で行われていることが分かる。

# تنظيم داعش يتوسع في ليبيا



(『シャルク・ル・アウサト』 2015年2月20日付より作成)

図からはまず、戦闘の主役は国軍ではなく民兵組織などの非公式な軍事組織であることが分かる。国軍は全く戦闘をコントロールできておらず、軍内部さえも統制できていない。むしろ、トブルク政府もトリポリ政府も戦闘において民兵組織の武力に頼っている。トブルク政府はイスラーム過激派掃討作戦や対トリポリ勢力との戦いにおいて、ハフタル退役少将率いる「リビ

ア国民軍」なる民兵組織（「尊厳作戦」を遂行中）を正式に迎え入れている。トリポリ政府側にはウバイディー前参謀総長がいる一方で、ミスラータ民兵を中心とする「リビアの夜明け作戦」部隊が主戦力となっている。しかしハーシー首相は「リビアの夜明け作戦」をもはや統制できていないと述べている。

イスラーム主義集団も一枚岩ではない。リビア・ムスリム同胞団、2月17日旅団などはトリポリ政府及び「リビアの夜明け作戦」を支持する。アンサール・シャリーアはベンガジを拠点にトブルク政府勢力と交戦しており、トリポリ政府と近い関係にある。他方、デルナなどでは「イスラーム国」に支持表明を行った過激派組織が優勢な状況だが、「イスラーム国」系組織とトリポリ政府との関係ははっきりしていない。

これら諸派は、油田やパイプライン、原油を輸出する港、空港の支配権を巡って戦闘を続けている。リビアの内戦はしばしばイスラーム主義勢力と反イスラーム主義勢力の戦いと表現されるが、実情は、国家崩壊後に誰が国家資源を支配するかを巡る戦いとなっている。さらに2014年秋以降は、国家資源を巡る戦いは南部の少数部族地域にまで広がった。南部の油田地帯を支配するため、ミスラータ民兵がトゥアレグ族を、ジンターン民兵がトゥブ族を支援するという構図が現れている。

### (3) 「イスラーム国」にとってのリビア

こうした無秩序状態のリビアは、ヒト、モノ、カネの非合法的取引が容易に行えるため、非合法活動を行う組織にとって極めて利用価値が高い。「イスラーム国」に関しては、隣国チュニジアからは「イスラーム国」への志願兵がリビア経由でシリア・イラクへ送り込まれ、またイラク・シリアの「イスラーム国」戦闘員がリビアに送り込まれた。英 Quilliam 財団によれば、ある「イスラーム国」幹部は、リビアの欧州との地理的近接性を指摘し、リビアを拠点に欧州への攻撃を開始するべきと主張している。治安が崩壊したリビアは、「イスラーム国」戦闘員を勧誘する格好の場所でもあり、「イスラーム国」の対欧米戦略の新たな拠点にもなりうるのである。

（金谷研究員）

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

©各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>